

『急変の予測とアセスメント研修』 研修会実施報告

日時：2020年9月12日（土曜日）08:30～16:50

対象者：ラダーⅡ～Ⅲを目指す者

参加者数：32名

目的：重症化・急変予測につなげるための急性期アセスメントが理解できる

＜講師の紹介＞

特定看護師 主査
集中ケア認定看護師 主査



＜内容＞



午前の研修は、「バイタルサインと周術期看護」「シリンジポンプとカテコラミン」についてでした。患者のデータを読み取り急変を予測し備えておくための見るべきポイントについてや、医療機器を正しく取り扱い「当たり前のことを当たり前にする」ことで人為的な急変につなげないようにすることの重要性を再認識することが出来ました。

午後は、「集中ケア」についてでした。心停止した患者の70%は、心停止前の8時間以内に呼吸症状の増悪所見を呈しているという講義を受け、午前の講義にあった呼吸数測定的重要性を強く感じまし

た。多くの急変には前兆があり、そこに至らないためには予測できるアセスメント力を身につけ適切な手技で必要な看護を行うことが大切になると学ぶことが出来ました。

そして、講義後には症例を用いて「呼吸・循環・意識レベル」の各項をもとに「数日間で起こってほしくない現象は？」というテーマでグループワークを行いました。この患者にはどのようなことが予測され何が必要か、何が原因でその症状がでているのか等、活発な意見交換が行われました。受講生からは、「日々の対応の中で“きっと大丈夫だろう”という先入観は捨て、急変の前兆に気づくことができるよう意識していこうと思います。」「急変予防は呼吸数測定からということ研修の中で学び、今後は呼吸数の観察もしっかりと行い、患者のアセスメントをしていこうと思います。」等意見がありました。急性期アセスメントの向上につなげられる研修となり、それぞれの部署で活躍されることを期待しています。